



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～流行中の感染症について～

12月も引き続き感染性胃腸炎が流行しています。感染性胃腸炎では、嘔吐、下痢、食欲低下、哺乳低下などの症状がみられますが、白い便、白っぽい便が出ることがしばしばあります。形のある便であっても、白っぽい便が出ているときはウイルスに感染している可能性があります。

### ～新型コロナウイルス・インフルエンザについて～

年が明けていよいよ冬本番となり、インフルエンザも増えてきました。現在流行している型はインフルエンザA型です。この3年間インフルエンザなどがほとんど流行しませんでした。この冬はコロナ前のように色々の感染症がみられています。

新型コロナウイルスは現在8波ですが、東京では1月11日に実行再生産数が1.09でピークとなった後は低下してきています。日本にける流行のウイルス型を見てみると、オミクロン株の亜型、BF.7、BA.5.2、BA.5.2.1、BA.5.1、BQ.1.1、BA.5.2.6、BF.7.4.1、BF.5、その他など多岐に渡っています。現時点ではこれらのオミクロン株の重症化率死亡率は季節性インフルエンザよりも低くなっていますが、感染力は強いためすぐに流行が拡大します。コロナウイルスは約2週間に1回のペースでどんどん変異していくので、新しいワクチンが出来ても実際に接種をする頃には型が変わってしまっています。

### ～新型コロナワクチンについて～

厚労省のアドバイザリーボードによれば、子供へのワクチンは基礎疾患のある患児への重症化予防効果は強く期待できる一方で、これ単独で流行が阻止できるだけの感染予防効果はないため、有害事象への心配をぬぐい切れない当事者に努力義務を課して接種するだけの説得力はない、とされています。このような状況を受けて、全国1788市町村の中では、子供への接種券を一齐送付せずに希望者のみに送付する自治体もあります。5～11歳のワクチンに対しては88自治体、6か月～4歳に対しては363自治体が希望者のみに接種券送付を行っています。

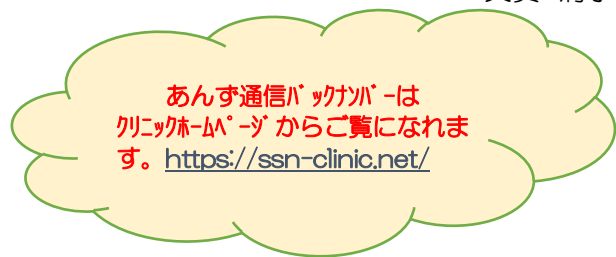
### ～新型コロナワクチンの副反応について～

12月16日に厚労省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計1919名、重篤副反応は26,363名でした。これらの情報は厚労省のホームページからどなたでも閲覧することができます。

表1：12月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

文責：清水マリ子

	感染症	患者数
1	胃腸炎(10/14 年/1 含む)	198
2	新型コロナウイルス	12
3	インフルエンザ A	9
4	突発性発疹	6
5	溶連菌	4
6	水ぼうそう	2
7	RSウイルス	1
7	とびひ(伝染性膿痂疹)	1



### ～あんずからのお知らせとお願い～

- ★**空き状況**を Web で確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
- ★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

### ★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

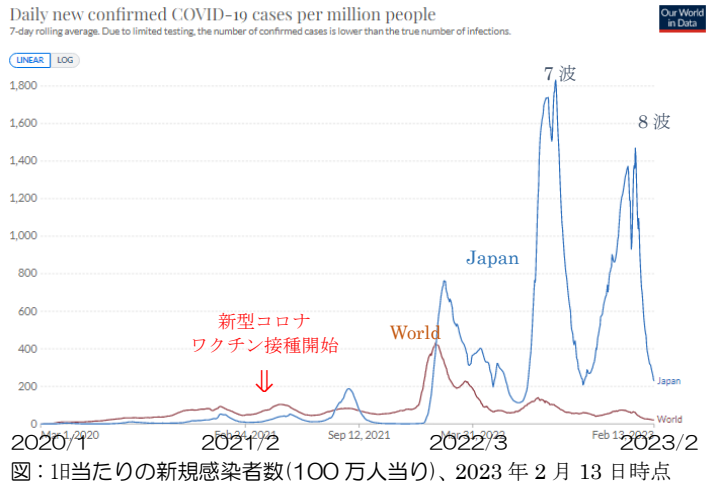
### ～流行中の感染症について～

1月も12月に引き続き感染性胃腸炎が流行しています。そして2020年以降ほとんど流行しなかったインフルエンザが約3年ぶりに流行し、市内でも学級閉鎖や学年閉鎖が出ています。東京都感染症情報センターによると、現在の流行型はインフルエンザA(AH3香港型)が主流です。症状は3～5日間の発熱、関節痛、倦怠感、徐々に鼻汁や咽頭痛、咳などの上気道症状が出ます。嘔吐や腹痛・下痢を認められることもあります。熱が高いときは消化機能が低下しますので、食事は無理にせず、水分を普段よりも多く摂りましょう。顔色が良く、眠れるようであれば解熱剤を使う必要はありません。痛みが強い、眠れないなど辛そうな時は解熱剤を使用しましょう。解熱後もしばらくは咳が続く、2～3週間ほどに長引くこともあります。出席停止期間は発熱後5日間かつ解熱後3日間(小学生以上は2日)ですが、期間が終わっても咳がひどい場合は自宅療養しましょう。なお、都内の感染状況は東京都感染症情報センターのホームページからどなたでもご覧になれます。

### ～新型コロナウイルスについて～

厚労省は1月27日に厚生科学審議会の感染症部会を開催し、その後5月8日に新型コロナウイルスの感染症法の分類の5類に引き下げることを了承しました。5類というのは季節性インフルエンザに相当する分類です。具体的な衛生管理マニュアルはまだ発表されていませんが、文科省では卒業式や入学式でマスクを外しても出席できるよう緩和する方針を発表しています。

国内の感染動向をみると1月中旬以降は全国的にみても新規死者数のピークが過ぎ、減少に転じています。世界的にもコロナ感染は終息してきています。Our World In Dataで見ると、一人当たりの新型コロナワクチンの一人当たり接種数は日本が世界一である一方、新規感染者数は日本が最多となりました(図:茶色のラインが世界、青が日本→)。



### ～小児の新型コロナワクチンについて～

2月9日に公表された日本国内の5～11歳のワクチン接種状況は、1回接種済が23.9%、2回接種済が23.0%、3回接種済が8.6%です。また、6か月～4歳の接種状況は1回が3.4%、2回が2.8%、3回が0.2%となっています。

### ～新型コロナワクチンの副反応について～

1月20日に厚労省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計1967名、このうち5～11歳は3名でした。また、予防接種健康被害救済制度の審査請求の受理件数は2月10日時点で6219件となっています。これらの情報は厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

文責:清水マリ子

	感染症	患者数
1	胃腸炎(16含む)	152
2	インフルエンザA	72
3	新型コロナウイルス	3
3	溶連菌	3
3	突発性発疹	3

表1:1月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護着用し必要最低限実施しています。

あんず通信バックパ-は  
クリニックからご覧になれます。  
<https://ssn-clinic.net/>

### ～あんずからのお知らせとお願い～

- ★**空き状況**をWebで確認出来るようになっています。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
- ★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

### ★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～インフルエンザ、感染性胃腸炎について～

1月から2月にかけてインフルエンザA型が久しぶりに流行し、市内でも学級閉鎖や学年閉鎖が出ました。とはいえ2019年以前の流行ほどではなく、テレビやニュースで度々言われていた「新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行」は大事に至っていません。インフルエンザのほかに、胃腸炎は相変わらずの流行です。ノロウイルスもまだ検出されていますので、手洗いうがいなどで予防しましょう。インフルエンザで高熱が出た場合、胃腸炎で嘔吐下痢になった場合、いずれも脱水症にならないよう水分補給を行いましょ。特に水様下痢の場合には水分と共に塩分も出てしまいますので、イオン飲料や経口補水液、あるいは出し汁やコンソメスープのようなもので塩分も補給しましょう。嘔吐が止まらないときは、吐き気が収まるまで1～2時間は胃を休めるため絶飲食します。飲水を再開するときは、ペットボトルのキャップ1杯ずつを目安に少量から始めましょう。

### ～新型コロナウイルスについて～

2月以降新型コロナウイルス感染者数は減少が続いています。中国からの入国者制限も3月1日から緩和され、国内ではマスク着用が3月13日から個人の判断に委ねられました。現在流行しているオミクロン株の特徴としては、感染拡大しても濃厚接触者の特定と自宅待機の有効性が低下しています。また、無症状感染者も多いことからすべての感染者の隔離は困難であるとされています。5月8日に五類へ分類が変更されることを踏まえ、特に注意が必要となる重症化リスクのある方へ移さないことに重点を置きましょう。

### ～小児の新型コロナワクチンについて～

厚労省は3月8日からオミクロン対応2価ワクチンの接種を開始することを通知しました。イギリス、フランス、カナダにおいて2023年春以降は重症化リスクが高い高齢者などを接種対象者としています。イギリスの諮問委員会(JCVI)では、若年者で高リスクではない者への追加接種は2022年秋を最後に終了すべきとしています。また、米国では生後6か月以上の者を対象としているものの、米国FDA諮問委員会(FDA VRBPAC2023/1/26)では若年者に毎年接種する必要性は疑問視されています。我が国のPMDAの審査報告の概要として、5～11歳の小児に2価ワクチンを接種した際の免疫原性のデータは得られていないが、成人において有効性が報告されていることを踏まえ、小児においても有効性は期待できると報告しています。

### ～新型コロナワクチンの副反応について～

3月10日に厚労省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計2002名でした。また、重篤副反応は累計8517件で、この内6か月～11歳は41件でした。厚労省プレスルームで3月2日に行われた緊急記者会見ではワクチン被害者遺族の会らが、健康被害救済認定の迅速化、後遺症・突然死の原因究明、国民の自主決定権、ワクチンの禁止、新型コロナワクチン接種の停止などを厚労大臣へ要望書を提出しました。この他、2月2日東京地方裁判所において、京都大学名誉教授の福島雅典先生らが厚労省に対し、情報開示請求訴訟を行いました(2021年の接種後致死率は開示されていたが、2022年为非開示となっていることなどに対して)。これらの情報はWebからどなたでもご覧になれます。

文責：清水マリ子

表1：2月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザA型	127
2	胃腸炎(10代/11含む)	112
3	溶連菌	2
4	咽頭アデノウイルス	1
4	インフルエンザB型	1
4	新型コロナウイルス	1

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。

あんず通信バックナンバーは  
クリニックホームページからご覧になれます。  
<https://ssn-clinic.net/>

### ～あんずからのお知らせとお願い～

- ★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
- ★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

### ★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～インフルエンザ、感染性胃腸炎について～

3月中もインフルエンザAと胃腸炎が感染症のトップでした（感染症以外では花粉症の方が多数受診されました）。東京都感染症情報センターのデータを見ると、東京都全体でも3月からインフルエンザは減少傾向となりました。今シーズンのインフルエンザ流行はかつての猛威はなく、比較的緩やかでした。

4月は入園、入学、進級の季節で初めて集団生活となるお子さんも大勢いらっしゃると思います。集団に入れば、初めて様々な経験をするとともに、これまでに罹ったことのない様々な風邪や胃腸炎などに罹っていくこととなります。それでも、次々と風邪や胃腸炎に罹ることによって、次々と自然免疫を獲得していくこととなります。特に最初の半年はしょっちゅうお休みしなければならない状況になりますが、2～3年も経つとほとんど風邪や胃腸炎にかからなくなります。

### ～新型コロナウイルスについて～

文部科学省は新型コロナウイルスの5類移行後、感染した児童生徒の出席停止期間を「発症から5日間が経過し、かつ症状軽快後1日を経過するまで」に短縮することを発表しました。つまり、5月8日以降は季節性インフルエンザと同等の扱いとなります。5類になると、全数把握はせずに定点把握（定められた施設から週1回報告された数の集計）となります。世界的にみても新型コロナウイルスは弱毒化しました。特に免疫低下している患者さんや持病のある高齢者以外では通常の日常生活を送ることが大切です。成長発達段階にある子供にとって、マスクや行動制限による害が問題になっています。特に小さいお子さんでは、言葉の発達や表情を読み取る能力に遅れが出ることが指摘されています。マスクをしていない子供もすべての活動に参加出来る環境を大人が作ってあげましょう。

### ～新型コロナワクチンについて～

WHO（世界保健機関）は3月28日、新型コロナワクチン接種は60歳未満の健康な成人に対する定期接種を推奨しないと発表しました。さらに、生後6ヶ月から17歳までの健康な子供については、麻疹などの予防接種に比べ、接種の効果は遥かに小さいとしています。3月の厚労省の発表では、5月8日以降の春接種に関しては65歳未満の健康な人は接種対象外となり、基礎疾患のある方のみが対象となります。

### ～新型コロナワクチンの副反応について～

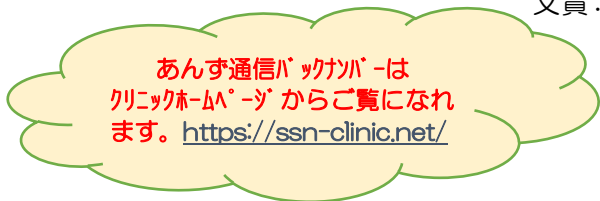
3月10日に厚労省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計2002名でした。令和5年4月7日までに受理された健康被害救済制度の件数は7111件にのぼっています。

表1：3月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	インフルエンザA型	118
2	胃腸炎(106含む)	95
3	溶連菌	9
4	突発性発疹	2
4	水ぼうそう(水痘)	2
5	咽頭アデノウイルス	1
5	インフルエンザB型	1
5	RSウイルス	1
5	とびひ(伝染性膿痂疹)	1

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護服着用し必要最低限実施しています。

文責：清水マリ子



### ～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

### ★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～流行している感染症について～

4月に入ってからは一部の地域を除いて季節性インフルエンザが大分減ってきました。東京都感染症情報センターのデータでも同様にインフルエンザが減少しています。一方、RSウイルスや溶連菌、アデノウイルスによる咽頭結膜熱や、ノロウイルスなどの感染性胃腸炎、手足口病・ヘルパンギーナなどが増加傾向です。気温が上がるにつれて夏の感染症も増えて来ています。

### ～新型コロナウイルスについて～

厚労省は新型コロナウイルスの5月8日の感染症法の分類を5類へ移行することを4月27日に正式決定しました。5月8日以降は、季節性インフルエンザと同等の扱いとなり、発症翌日以降5日間かつ症状改善後1日は外出を控え、自宅療養とする方針です。

今後学校ではマスクの着用は求められず、給食の時も「黙食」は必要なくなりましたが、引き続き健康状態の把握、適切な換気の確保、手洗いなどの手指衛生や咳エチケットを行いましょう。また、水際対策は4月29日の0時から緩和されました。海外から入国する際も、ワクチン接種証明書や出国前検査証明書の提示が不要になりました。

また、5月5日WHO(世界保健機関)は3年3か月ぶりに「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に当てはまらなくなったと発表しました。死者は公式発表では少なくとも世界で700万人とされています。日本国内の3年3カ月の総死者数は約7万5千人でした。一方、過去を振り返って第1次世界大戦中に起こったスペイン風邪と比較してみますと、内務省衛生局の発表で1918年8月から1920年7月までに流行したスペイン風邪の日本国内の総死者数は38万5029人でした。当時の人口が約5千5百万人でしたから、スペイン風邪はいかに被害が大きかったかがわかります。

### ～新型コロナワクチンについて～

WHO(世界保健機関)は3月28日、新型コロナワクチン接種は60歳未満の健康な成人に対する定期接種を推奨しないと発表しました。また、17歳以下に対しては最も優先順位が低いとしています。重症者や重大な並存疾患のある方には推奨する一方、並存疾患のない健康な成人に対しては定期的な接種は推奨せず、健康な小児への初回及び追加接種については各国で判断すべきとしています。なお、日本国内では特例接種が令和5年度中は継続されますが、世界では接種はほぼ終了となり、日本だけ6回目の接種が開始されます。

### ～新型コロナワクチンの副反応について～

令和5年4月28日に厚労省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計2058名(このうち19歳以下は9名)でした。このうち、4回以上接種が251名でした。また、接種後の心筋炎・心筋炎疑い事例は520名で、このうち11歳以下は9名でした。接種後に体調不良を生じた場合には、予防接種健康被害救済制度という制度があります。令和5年4月20日までに受理された健康被害救済制度の件数は7288件にのぼっており、このうち認定されたのは2398件です。

表：4月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	106
2	インフルエンザA型	43
3	溶連菌	13
4	突発性発疹	3
5	咽頭アデノウイルス	2
5	RSウイルス	2
5	水ぼうそう(水痘)	2
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	1

※新型コロナウイルス流行中は、感染症検査は防護服着用し必要最低限行っています

### ★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

### ～あんずからのお知らせとお願い～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

あんず通信バックパ-は  
クリニックへ-ジ からご覧になれ  
ます。 <https://ssn-clinic.net/>

文責：清水マリ子





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～流行している感染症について～

5月も胃腸炎が最多でしたが、今年久しぶりに流行したインフルエンザがダラダラと続いています。とはいえ、感染者数はピークに比べれば多くありません。そのピークも、コロナ以前の大流行に比べれば記録的なものではありません。その他、ウイルス性胃腸炎、アデノウイルス、溶連菌、ヘルパンギーナ、手足口病、RSウイルスなど、様々な感染症が発生しています。RSウイルスは0歳児では特に重症化する事がありますので注意しましょう。このほか、特に強い咳が特徴の長引く風邪が流行しています。入院するほどの重症化はないものの、いわゆる風邪の患者さんが多数受診されています。

### ～東京都の麻疹の動向～

東京都感染症情報センターの流行状況を見ますと、2023年の20週目と21週目（5月中旬）に計4名の報告が上がっています。潜伏期が10～12日（最大21日）である事を考えるとそろそろ終息しそうですが、まだ注意が必要です。特に注意が必要なのは、定期接種を受けていない0歳児です。0歳時期に麻疹に罹患すると、肺炎や喉頭炎、脳炎など重症化する可能性があります。予防としては、自費で生後6ヶ月から接種可能です。また、万が一麻疹患者に接触した場合、72時間以内にワクチンを接種すると麻疹の発症を予防できる可能性があります。また、接触後4日以上6日以内であれば免疫グロブリン製剤の注射という選択肢もあります。

### ～新型コロナウイルス・ワクチンについて～

5月8日、厚労省は新型コロナウイルスの感染症法の分類を2類相当から5類へ変更しました。つまり、季節性インフルエンザと同等の分類となりました。それに伴って少しずつ日常生活の制約が改善されています。現在流行しているオミクロン株はXBB.1.16型、XBB.1.5型、XBB.2.3.2型、FL.4型など数十種類に及んでいますが、強毒株は報告されていません。現在使用されている新型コロナワクチンの2価ワクチンには、従来株（起源株）とBA.4-5株の2価が含まれていますが、これらの2価ワクチンの株の流行は終了しています。これを受けて、世界保健機関(WHO)の諮問グループは、今年の追加接種は「XBB」を対象にすべきと助言しています。しかし、コロナウイルスのようなRNAウイルスの変異速度は早く、2週間程度で変異することがわかっていますので、新しいワクチンが完成する頃にはまた異なる型に変異していることでしょう。

令和5年5月7日時点での東京都の新型コロナワクチン小児接種状況は、0～4歳児では約5%、5～11歳約24%、12～19歳では約67%となっています。

### ～新型コロナワクチンの副反応について～

令和5年4月28日に厚労省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計2058名（このうち19歳以下は9名）でした。令和5年6月9日までに受理された健康被害救済制度の件数は7772件にのぼっており、このうち認定されたのは2809件です。また、米国疾病管理予防センター(CDC)の報告によると、2022年6月から2023年3月までの約24万7千回接種について、6歳以下の104名の子供がコロナワクチン接種後42日以内に痙攣をおこしたと報告しました。この他に報告されているのは、虫垂炎、ベル麻痺、脳炎、脊髄炎または脳脊髄炎、ギラン・バレー症候群、免疫性血小板減少症、川崎病、肺塞栓症、出血性脳卒中、横断性脊髄炎、静脈血栓塞栓症などです。

表：5月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(7/4, 10/1 含む)	157
2	溶連菌	66
3	インフルエンザ A 型	35
4	咽頭アデノウイルス	18
5	ヘルパンギーナ・手足口病	8
6	新型コロナウイルス	6
7	突発性発疹	5
8	水ぼうそう（水痘）	3
9	おたふくかぜ	1
9	とびひ（伝染性膿痂疹）	1

### ★病児保育室あんずでの新型コロナ対策

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

あんず通信バックパ-は  
クリニックへからご覧にな  
れます。 <https://ssn-clinic.net/>

文責：清水マリ子





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～流行している感染症について～

6月も胃腸炎が最多でしたが、この数ヶ月は様々な感染症が流行しています。東京都では6月22日にヘルパンギーナの定点報告数が警報レベルを超えたと発表しました。ヘルパンギーナは手足口病と同じ夏風邪のウイルスの一種で、毎年夏に小児の間で流行します。今年は2019年以來久しぶりの流行ですので、3年間かからなかった子供たちが一度に罹っていると見られます。また、RSウイルスの流行がニュースになっておりますが、2021年の大流行に比べるとそこまではなく、過去例年と同じレベルです。RSウイルスは乳児で気管支炎や肺炎で重症化する事があり注意が必要です。0歳児で咳や鼻水の他に、哺乳量が減ったり、顔色が悪くなったり、呼吸が早くなったり、ゼイゼイしたりする時は医療機関を受診しましょう。

### ～東京都の麻疹の動向～

東京都感染症情報センターの流行状況を見ますと、2023年の20週目と21週目（5月中旬）、24週目（6月下旬）に計5名の報告が上がりました。潜伏期が10～12日（最大21日）である事を考えるとほぼ終息したとみられます。

### ～新型コロナウイルス・ワクチンについて～

7月5日、日本医師会の釜淵敏常任理事は新型コロナウイルスの感染者数が5月よりも6月は増加しており9波に入ったとみられると発表しました。現在の流行株であるオミクロン株の重症化率は増悪傾向とは言えず、XBB.1.9.2、XBB.2.3、XBB.1.5などが主流となり、引き続き注意が必要なのは免疫の低下した基礎疾患のある方、高齢者のみです。

令和5年7月9日時点での東京都の新型コロナワクチン小児3回目接種率は、0～4歳児では3.8%、小児では9.9%となっています。

### ～新型コロナワクチンの副反応について～

令和5年4月28日に厚労省から発表された国内の接種後副反応報告では、因果関係不明ですが接種後死亡数が累計2057名（このうち19歳以下は9名）、副反応疑い報告数は36295件でした。令和5年6月29日までに受理された健康被害救済制度の件数は8064件にのぼっており、このうち認定されたのは3163件です。

2022年8月31日～10月23日に米国の医療関係者等からの報告に基づくオミクロン株対応2価ワクチンの12歳以上の有害事象が5542件報告されました。右表と下表にお示しします。

重篤	ファイザー製	モデルナ製
アレルギー	6件	2件
虫垂炎	4件	1件
不整脈	8件	5件
死亡	27件	9件
血栓症	20件	11件
心筋炎・心膜炎	8件	5件

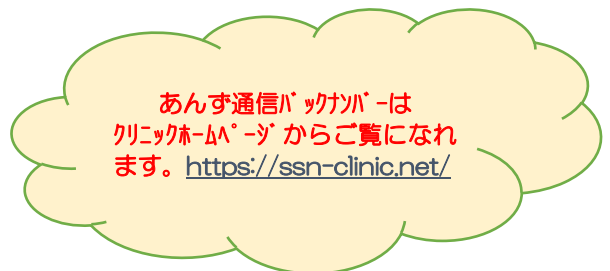
表：6月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(アデノ2含む)	187
2	溶連菌	122
3	ヘルパンギーナ・手足口病	58
4	咽頭アデノウイルス	33
5	RSウイルス	26
6	インフルエンザA型	10
7	新型コロナウイルス	7
8	突発性発疹	6
9	とびひ(伝染性膿痂疹)	4
10	おたふくかぜ	2
10	水ぼうそう(水痘)	2
12	ヘルペス歯肉口内炎	1

### ★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

非重篤	ファイザー製	モデルナ製
頭痛	343件(12.4%)	285件(11.3%)
疲労	318件(11.5%)	257件(10.2%)
発熱	299件(10.8%)	262件(10.4%)
悪寒	293件(10.6%)	231件(9.1%)



文責：清水マリ子





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～胃腸炎について～

7月も色々な種類の感染症が流行しましたが、8月に入って少し患者数が落ち着いてきました。この数ヶ月は胃腸炎が最も多く続いています。胃腸炎で特に注意したいのは乳児です。脱水症や慢性下痢になることがあります。なぜ乳児は一度胃腸炎になるとなかなか治らないのでしょうか。小さい子供の臓器は成人に比べて未熟な状態だからです。例えば、新生児の腸の長さは成人の約半分ですが、成人の長さには達するのは4歳ごろです。大人も子供も一度胃腸炎にかかる、腸の消化吸収を担っている粘膜表面が壊れてしまいます。腸粘膜が治ってくるまでに成人では平均3～4日かかりますが、乳児期では2週間ほどかかることがあります。下痢が2週間以上長引き、乳製品を摂ると下痢が再燃してしまう場合には、二次性乳糖不耐症が疑われます。このような場合には、しばらくの間、通常ミルクから無乳糖ミルク※に替えたり、乳製品を除去したりすることでゆっくりと改善していきます。※無乳糖ミルクは何種類か市販されています（ノンラクト、ボンラクト、MA-1ミルクなど）

### ～東京都の感染症の動向～

東京都感染症情報センターの流行状況によると、4月から国内で報告された麻疹は、6月を最後に報告はありません。潜伏期を考えると、ほぼ収束したとみられます。また、2022年から報告されていたエムボックス（サル痘）もほぼ収束してきています。東京都で検出されたエムボックスの流行株はグレードⅡbに属するもので毒性は弱いとみられます。人から人へ感染する事はほとんどありません。

### ～新型コロナウイルス・オミクロン株について～

5類移行後の患者数は11週間連続で増加しています。患者数と言っても、5類移行後は定点測定となっており、9波の患者数は実数より少なく測定されていることとなります（実際はもっと多いということ）。8月4日の厚労省アドバイザリーボードの発表では、全年齢で増加傾向にあるものの、医療提供体制の状況については全国的なひっ迫は見られていないとしています。引き続き注意が必要なのは免疫の低下した基礎疾患のある方、高齢者のみです。

### ～新型コロナワクチンについて～

7月26日の記者会見で日本医師会常任理事の釜薙敏医師は65歳以上の人や基礎疾患を持つ人以外が重症化する割合はそれほど高くない。全体の感染を抑えるために無理をして接種してもらうよりも、個人で選択してもらう時期に入ったと述べ、高齢者や基礎疾患のある人意外に積極的に接種を呼びかける必要はないという認識を示しました。

### ～新型コロナワクチンの副反応について～

7月28日に発表された副反応報告では因果関係不明ですが、累計で2076名が死亡、重篤副反応は27361人でした。新型コロナワクチンの健康被害認定数は、2023年7月31日までに3586件にのぼっています。予防接種健康被害救済制度の過去45年間の健康被害認定数（MMRやBCG、日本脳炎ワクチンなど全てのワクチンの総数）が3522件である事と比較すると、いかに新型コロナワクチンの健康被害認定数が多いかがわかります。

7月24日「新型コロナワクチン後遺症患者の会」は厚労省会見室において記者会見を開きました。7月14日までに予防接種法救済制度に8138件の申請があるにもかかわらず、未だに4229件が審査されていません。これらに対し、迅速な実態把握と救済を国や自治体に求めました。会員の中には健康被害で学校や仕事に通えなくなった患者もがいて、教育を受けられる機会の確保や、就労困難者に対する救済の仕組みを整備するよう訴えました。

表：7月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	181
2	ヘルパンギーナ・手足口病	136
3	溶連菌	118
4	咽頭アデノウイルス	19
5	RSウイルス	17
5	新型コロナウイルス	17
7	インフルエンザA型	13
8	インフルエンザB型	1
8	突発性発疹	1

### ※ 夏休みのお知らせ ※

下記の期間は夏休みとなります。ご不便をおかけしますが何卒宜しくお願い致します。

**病児保育室あんず：8月19～27日**

しみず小児科・内科クリニック：8月20～27日

あんず通信バックナンバーは  
クリニックホームページからご覧になれます。<https://ssn-clinic.net/>



### ★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。







～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～溶連菌感染症について～

8月は久しぶりに溶連菌感染症が1位になりました。令和2～4年の間はほとんど検出されませんでした。今年久しぶりに流行しています。溶連菌感染症にも色々種類がありますが、一般的に溶連菌感染症とは、咽に感染するA群溶血性連鎖球菌を指します。感染経路は主に飛沫感染や接触感染です。2～5日間の潜伏期の後、突然38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌、発疹などの症状が出ます。3～5日で熱は下がりますが、しばしば嘔気や腹痛を伴います。重症化することは稀です。症状発現から10日前後に急性腎炎を合併して、血尿や浮腫や急な血圧上昇を認めることがあります。抗生物質を7～10日間で服用することで治療と除菌を行います。

### ～インフルエンザについて～

8月下旬から再びインフルエンザが増加しています。今年の冬～春の流行が少なかったぶん、ダラダラと感染が持続していましたが、再上昇しています。学級閉鎖に関しては、インフルエンザも新型コロナウイルスも両方流行しており、地域や学校によって異なります。現在流行しているのはA型ですので、すでに罹ってしまった方では、A型の亜型やB型に対する免疫をつけた方は秋のインフルエンザワクチンを接種すると良いでしょう。

### ～新型コロナウイルスについて～

東京都健康安全研究センターの報告によると、現在国内で流行しているオミクロン株は主系統がEG.5.1、第二系統がEG.5.1.1、第三系統がXBB.1.16となっています。一方、9月20日から始まる新型コロナワクチンの型はXBB.1.5に対応したワクチンであり、現在流行している株とは異なっています。症状は急な発熱、咽頭痛、頭痛、倦怠感などで、インフルエンザと似たような風邪症状です。

### ～新型コロナワクチンについて～

世界保健機関(WHO)は健康な小児に対するワクチン接種は優先順位が低いとして、国ごとの状況を加味した上で小児のワクチンの必要性について検討する事を奨めています。日本小児科学会では推奨されています。

9月20日から始まる秋接種について、厚労省の資料にある公的関与は、**基礎疾患のない方は本人や保護者に対する努力義務は無く、市町村からの接種勧奨の義務はありません**。WHOはワクチン接種は有効かつ安全としていますが、9月20日から始まるXBB1価ワクチンはマウスでの試験(非臨床試験)のみで、ヒトで行う臨床試験は行われていない特例承認医薬品です。つまり、ヒトでの安全性は不明です。また、9月8日に行われた第50回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会参考資料に記載されているXBB株に対する中和抗体の測定値(つまり、ワクチン接種する事によってどの位マウスの抗体が上がるかの数値を表す)グラフ(右の図1)を見ますと、XBB株の抗体価は武漢株の抗体価の10～100分の1程度しかありません。このグラフは片対数グラフ(たて軸が10の乗数)になっていますので過大評価しないよう注意が必要です。

### ～新型コロナワクチン副反応について～

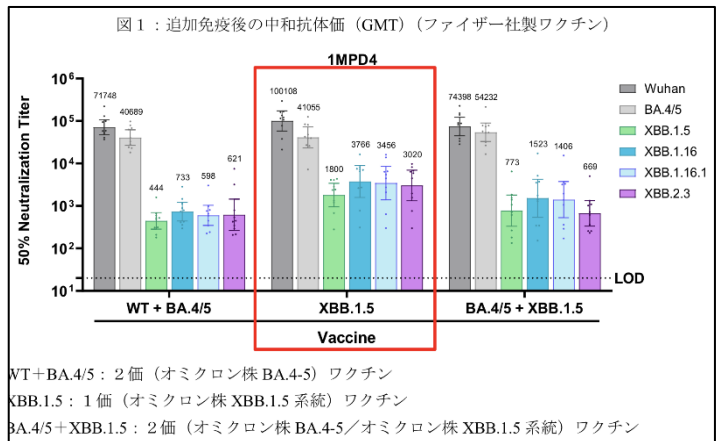
9月7日、東京都の厚生労働省会見室において、ワクチン問題研究会代表理事の福島雅典氏らが記者会見を行いました。令和5年4月30日までに報告された接種後の死亡者は2076件、重篤副反応が8638件、副反応疑いが36457件。昭和52年から開始された予防接種健康被害救済制度の累計認定者数は2021年に開始された新型コロナワクチンだけで4,098件であり、過去44年間(1977年2月～2021年12月の総数3,522件)の日本国内全てのワクチン健康被害認定者数の総数を超えている。世界的にもワクチン接種後症候群が社会問題となっており、新型コロナワクチン接種後に遷延する健康被害が顕在化し、有効な治療法に辿り着けず長期的に苦しんでいる患者が多く存在する。ワクチン接種後症候群の診断基準の作成、鑑別診断法・検査法の開発、診断ガイドラインの作成、有効な治療法の開発を目指すことなどを発表しました。これらの詳細については一般社団法人ワクチン問題研究会のウェブサイトからどなたでもご覧いただけます。

文責：清水マリ子

表：8月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	101
2	胃腸炎(7/12含む)	82
3	新型コロナウイルス	36
4	ヘルパンギーナ・手足口病	32
5	とびひ(伝染性膿痂疹)	7
6	突発性発疹	5
7	インフルエンザA型	4
7	RSウイルス	4
9	咽頭アデノウイルス	3
10	ヒトメタニューモウイルス	2
10	おたふくかぜ	2

あんず通信のツツパはクリニックへのご覧になれます。<https://ssn-clinic.net/>





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～インフルエンザについて～

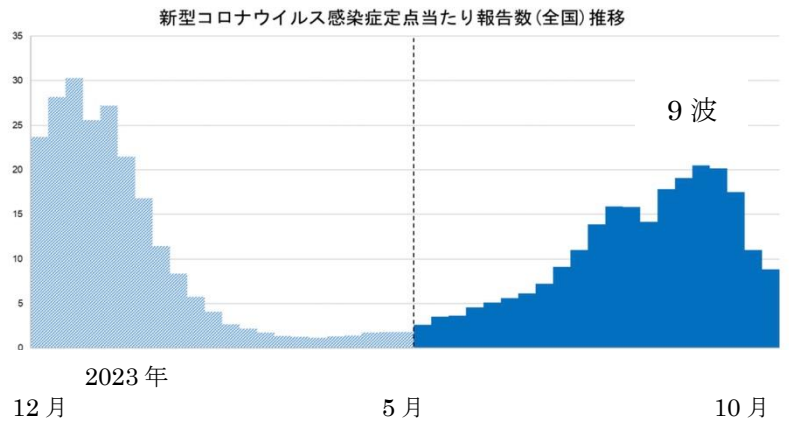
今年のインフルエンザの流行は、例年に比べてだいぶ早く始まりました。厚労省は10月6日、全国の14都県で注意報レベルに達したと発表しました。福生市内でも、学級閉鎖が散見されています。10月現在流行しているインフルエンザはA型で、こまかく見ると、AH3型が55.6%、AH1pdm09が44.4%で2つの亜型が混在しています。東京都の予想ではインフルエンザの流行期間が14週程度に長引きそうだとしています。今期のインフルエンザワクチン接種が始まっていますが、免疫が出来るのはワクチン接種後およそ2週間程度です。今後、A型の流行後にB型が流行するかどうかは未知ですがAの亜型B型重症化を予防するために接種するのも良いでしょう。南半球のオーストラリアの状況を見ますと、A型とB型が同時流行していました。今のところ日本国内ではB型はほとんど検出されていません。

表：9月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(7/2含む)	113
2	溶連菌	110
3	インフルエンザA型	72
4	新型コロナウイルス	34
5	ヘルパンギーナ・手足口病	32
6	咽頭アデノウイルス	19
7	突発性発疹	10
8	とびひ(伝染性膿痂疹)	5
9	水ぼうそう	4
10	RSウイルス	2
10	ヒトメタニューモウイルス	2
10	おたふくかぜ	2

### ～新型コロナウイルスについて～

厚労省は、新型コロナウイルスの全国の感染状況は10月1日の時点で前の週の0.8倍となり全国的に減少傾向にあるとしました(9波はピークアウト)。東京都健康安全研究センターの9月27日の報告によると、現在国内で流行しているオミクロン株は主系統がEG.5.1、第二系統がEG.5.1.1、第三系統がXBB.1.16となっています。9月20日から始まった新型コロナワクチンの型はXBB.1.5に対応したワクチンであり、現在流行している型とは異なっています。インフルエンザ、新型コロナ共に感染症の5類に分類されており、発熱後5日間の自宅療養が必要です。



### ～感染性胃腸炎(ウイルス性胃腸炎)について～

長い夏が終わり、涼しくなってきました。それと共に胃腸炎が増えてきました。症状は、食欲低下、嘔気・嘔吐、下痢などです。ほとんどがウイルスによるもので、1人患者さんが出るとあっという間に流行します。同様にご家族にもすぐに移ります。手洗い・うがい・消毒も大切ですが、感染しても発病しないよう抵抗力・免疫力を高めることも大切です。十分な睡眠をとり、バランスの良い食事、身体を冷やさないように注意しましょう。

### ～新型コロナワクチンについて～

今年のノーベル生理学・医学賞はドリュー・ワイスマン教授とカタリン・カリコ教授の2名の科学者が新型コロナウイルスのmRNA(メッセンジャーRNA)ワクチンにつながる技術を開発したことで共同受賞となりました。ノーベル賞委員会は、「現代の人類の健康に対する最大の脅威の一つの中で、前例のない速さでワクチン開発に貢献した」と評価しました。歴代受賞者は数十年に渡って人類に貢献した成果を考慮しての受賞でしたが、今回の受賞はノーベル賞の歴史の中でも異例のスピード受賞と言えます。

### ～新型コロナワクチン副反応について～

10月6日までに発表された予防接種健康被害救済制度による審議結果では、新型コロナワクチンによる健康被害申請に対する受理件数は累計9070件、累計認定件数4650件となっています。この件数は過去の全ての種類の予防接種健康被害の総数を大幅に上回っています。

文責：清水マリ子



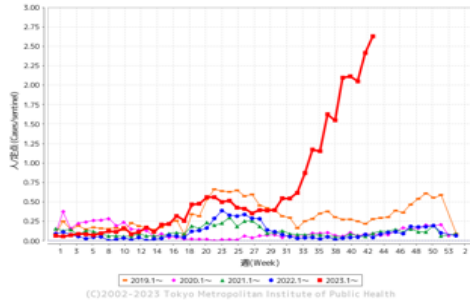


～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～咽頭結膜熱（プール熱、アデノウイルス感染症）について～

アデノウイルス感染がここ数年で最も流行しています。東京都の小児科定点医療機関からの患者報告が10月上旬に警報レベルに達しました。患者の82%が5歳以下の小児ですが、小学生も罹患しています。咽頭結膜熱は特別な治療やワクチンはなく、水分補給と安静が一番の治療です。原因となるアデノウイルスにはアルコール消毒が効きにくいことから、手洗い、咳エチケットなどで対応しましょう。咽頭結膜熱の症状は、発熱、咽頭炎、結膜炎（目の充血）などです。解熱後も丸2日間は出席停止と定められており、登園・登校の前には治癒証明が必要です。下図の赤線が今年のグラフです。



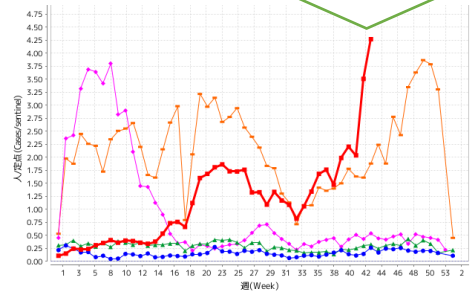
東京都  
咽頭結膜熱  
定点観測値

あんず通信バックナンバーは  
クリニックホームページからご覧になれます。  
<https://ssn-clinic.net/>

東京都  
溶連菌  
定点  
観測値

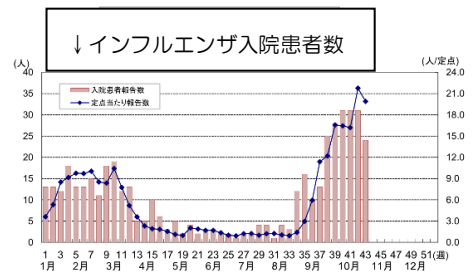
### ～溶連菌感染症について～

右の図は東京都感染症情報センターの今年の溶連菌の感染状況です。赤のグラフが2023年を表しています。ご覧のように10月にかけて増加しています。溶連菌感染の症状は急な高熱、咽頭痛などで、あまり風邪のような咳や鼻水を伴うことはありません。急性期は頭痛や嘔気、腹痛、関節痛などを伴い、症状だけではインフルエンザと区別がつきにくいこともあります。この他の特徴としては、目が充血したり、舌が赤くなったり、首リンパ腺が腫れたり、皮膚に発疹はかゆみを伴うことがあります。7～10日間抗生剤を内服して除菌治療を行います。感染から約10日後に稀に腎炎を合併することがあります。当院では念のため検尿を行っていますが、血尿やムクミが出ないかどうか確認しましょう。



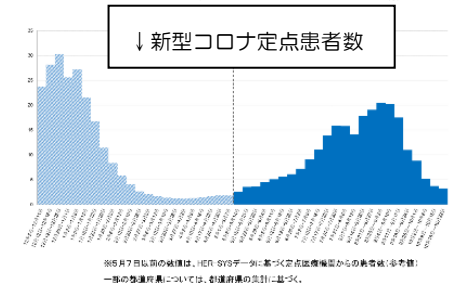
### ～インフルエンザについて～

現在東京都で流行しているインフルエンザはほとんどがA型です。内訳をみますと、A香港型が約6割、AH1pdm09型が4割、B型Victoria系統が2.6%です。現時点でかなり流行していますが、入院状況をみますとピークは越えてきているようです（右図）。ワクチン接種についてですが、一度インフルエンザに罹っても、同シーズン中に異なるA型に再感染したり、B型に罹ったりすることもあるため、罹患しても接種をご希望の場合は行っています。



### ～新型コロナウイルスについて～

厚労省は、新型コロナウイルスの全国の感染状況は10月1日時点で前の週の0.8倍となり全国的に減少傾向にあるとしました（9波はピークアウト右図）。また、厚労省の参考資料によると令和5年7/22～8/21に行われた血液検査の新型コロナウイルス抗体保有状況調査結果では、0～4歳、5～9歳、10～14歳、15～19歳のいずれも抗体保有率が60～80%となっています。11月7日NHK発表の日本国内乳幼児生後6か月から4歳のワクチン接種状況が1回4.3%、2回3.9%、3回3.1%、5～11歳のワクチン接種状況が1回24.5%、2回23.8%、3回10.1%であることを考えると、ワクチン接種をしなくても約7割の子供がすでに免疫を持っている事が判りました。



### ～新型コロナワクチン・新型コロナワクチン副反応について～

東京都健康安全研究センター11月10日報告によると、現在国内で流行しているオミクロン株は主系統がEG.5.1、第二系統がHK.3、第三系統がGK.1.1となっています。XBB系統は元々免疫回避能力が高く世界的流行となっているものの、これらの株では重症化や死亡リスクは低いと評価されています（WHO）。

10月27日に厚労省から発表された新型コロナワクチン副反応報告によると、因果関係不明ですが累計2122人が死亡。10月26日に発表された予防接種健康被害救済制度による審議結果では、新型コロナワクチンによる健康被害申請に対する受理件数は累計9222件、累計認定件数4914件となっています。この件数は過去の全ての種類の予防接種健康被害の総数を大幅に上回っており、前回よりもさらに増加しています。





～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～インフルエンザについて～

今年のインフルエンザは異例の8月からダラダラと流行が持続しています。11月にピークを過ぎたものの、12月に入り再び増加傾向です。主流はA型ですがAH3とAH1pdm09が混在(AH3>AH1pdm09)、B型も少し混在しています。12月8日までの東京都の定点報告ではまだ注意報発出中です。集団発生数や入院患者数はピークアウトしていますが、これから冬本番を迎えるに当り油断は出来ません。1シーズンに2回かかることもあります。

### ～感染性胃腸炎について～

例年同様、この季節は胃腸炎が増えてノロウイルスなどが検出されています。胃腸炎は食欲不振や嘔吐、下痢で始まります。特にノロウイルスは感染力が強く、ウイルス量が少なくても移ります。手洗いがいを行い、睡眠をしっかりと取って免疫力が低下しないよう心がけましょう。また、アルコール消毒効果が乏しく消毒には塩素系の消毒を使います。乳児では下痢が長引きやすく、1週間以上続く事はざらです。また脱水にならないよう水分補給を十分行いましょう。下痢の時はおむつ皮膚炎を起こしやすいので、こまめに洗浄して外用剤を塗布してあげると良いでしょう。

### ～中国で発生している小児の肺炎について～

10月中旬以降北京市や遼寧省などで発生している小児の肺炎については、WHOの情報によるとRSウイルスやアデノウイルス、インフルエンザ、マイコプラズマなどによるものと発表しています。これらは冬シーズンに毎年発生する他国でも同様に経験するものあり、新規の病原体や異常な症状は検出されておらず、予期せぬものではないとの見方です。

### ～溶連菌感染症について～

東京都感染症情報センターによる溶連菌感染症の流行状況は、ようやく先月ピークを迎えたようです。右図の赤線が2023年を表しています。溶連菌感染は2～5日の潜伏期の後、38℃以上の急な高熱、咽頭痛、莓状の舌などの症状が現れます。急性期は頭痛や嘔気、腹痛、関節痛などを伴いますが、熱は3～5日で下がり、症状は1週間以内に改善します。初期はインフルエンザやアデノウイルスなどと区別が付きにくいこともあります。この他の特徴としては、目が充血したり、舌が赤くなったり、首リンパ腺が腫れたり、皮膚に発疹はかゆみを伴うことがあります。7～10日間抗生剤を内服して除菌治療を行います。感染から約10日後、稀に急性腎炎を合併することがあります。当院では念のため検尿を行っていますが、血尿やムクミが出ないかどうか確認しましょう。

### ～新型コロナウイルス・ワクチンについて～

10月20日から11月20日にゲノム登録された型解析によると、日本の流行株は主系統がHK.3、第2系統がEG.5.1.1、第3系統がGK.1.1となっています。毎月どんどん変異していますが、これはRNA遺伝子を持つ風邪ウイルスの特徴であり、これまでワクチンを作ることは出来ないとされてきた所以です。11月までの状況では特に重症者が増加しているような報告は認められていません。新型コロナワクチン3回接種率は小児では乳幼児では約3.2%、5～12歳では10.1%となっています。11月29日に行われた第54回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会の資料では、新型コロナワクチン接種対象は高齢者及び重症化リスクの高い者に推奨されています。

### ～新型コロナワクチン副反応について～

10月27日に厚労省から発表された新型コロナワクチン副反応報告によると、因果関係不明ですが累計2122人(うち11歳以下が4名)が死亡。11月24日に発表された予防接種健康被害救済制度による審議結果では、新型コロナワクチンによる健康被害申請に対する死亡認定数は377件(申請数は1040件)です。1977年から2021年までのすべての予防接種による死亡認定数151件に比べ、新型コロナワクチンだけで過去最高の認定数となっています。

表：11月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌感染症	241
2	インフルエンザA型	147
3	胃腸炎(ノロ3アデノ1含む)	123
4	咽頭アデノウイルス(プール熱)	79
5	ヘルパンギーナ・手足口病	16
6	水ぼうそう	6
7	インフルエンザB型	5
8	突発性発疹	4
9	新型コロナウイルス	4
9	とびひ(伝染性膿痂疹)	1
9	おたふくかぜ	1

あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます。<https://ssn-clinic.net/>

**年末年始休業のお知らせ**  
病児保育室あんず休業: 12月29日～1月8日  
1月9日より通常ご利用になれます  
しみず小児科・内科クリニックの休診は  
12月28日午後～1月8日

